慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　１回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

速報

比企会長 慶應連合 三田会会長に就任

垣根のない大きな和の輪を作ろう

比企 能樹（外37回）

去る5月15日、慶應連合三田会名誉会長である塾長から、三田に呼ばれ「連合三田会の会長を引き受けるように」とのことでした。青天の霹靂とはそのことで、一瞬前会長の服部禮次郎さんの壇上の雄姿と凛と響くお声が頭をよぎり「私には荷が重すぎます」と、即座にお断り致しました。

信濃町で新病棟の建築がやっと実現化し始め、そのための募金が始まったばかりの大切な時であること、そして、個人的には高齢になって記憶力も低下し現在の仕事を整理し始めたところであること、前任の服部さんとは全てにおいて遥かな差があることを挙げました。しかし、ご多忙な塾長から長い時間をかけてご懇篤な説得を頂き、遂にお引き受けするに至りました。

その結果5月27日の慶應連合三田会常議員会において、正式に会長に就任しました。

私がこれまで三四会長を務めて参りましたのは、ひとえに塾の理事に指名されたことと新病院建設の目途が付くまでは頑張ろうと考えていたからです。そしてご賢察のように、塾長、戸山塾常任理事、末松医学部長、渡辺当該担当教授、三四会の副会長各位はじめ役員、会員の熱意を以って、ようやく新病院の見取り図が見え始めました。私はこれまで三四会長として全国各支部を出来る限りお訪ねし、会員の皆さまに募金をお願いしていくことで、自分の任期まで責任を果たそうとしていた所でありました。

この度の私に課せられた新たな任務は、医学部・三四会をも包括した、名の如く「連合三田会」のより良い実践と発展であります。慶應連合三田会には、年度、地域、勤務先・職種、諸会別の各三田会があり、それを連合したのが現在の慶應義塾同窓会の名称です。

塾で勉強した塾員が、それぞれ在籍した塾の各学校・学部を愛するのあまり、あたかも別々の母校がある如くに思うことが無かったでしょうか。歴史を紐解きますと、三田と四谷・信濃町とが、お互いに意識し合ったとの記事もあります。そのお互いの意識を、慶應義塾は一つの母校であるという気持ちに置き換えて活動をして行くことこそ、新しい連合三田会の使命であると考えます。

従いまして、全塾同窓会の傘下の一つであります医学部・三四会の皆さん、「垣根のない大きな和の輪を作る」という目標に向け邁進する決意を致しましたので、ご指導ご鞭撻、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

また医学部・三四会各位におかれましては、社会に門戸を開く全慶應義塾の一つの重要な表玄関である新病院棟の建設に向け、是非一層のご協力とご支援をお願いを、何卒、引き続きよろしくお願い申し上げます。

【略歴】
☆1953年　神奈川県立湘南高等学校卒。1958年　慶應義塾大学医学部卒（37回）
☆1971年　武見太郎先生が創設に関わった北里大学医学部へ塾から推薦され赴任。外科教授・消化器病センター長、病院長を歴任。
☆2002年より北里大学名誉教授、慶應義塾大学客員教授を務めるかたわら、厚生労働省、総務省、国土交通省において医療系有識者として委員長を務める等活躍中。
☆2005年より医学部三四会（同窓会）会長。2006年慶應義塾評議員、2010年年度慶應義塾理事。医学者として、国際人として、スポーツマンとして各場面で塾の誇りを胸に、尽力している。

慶應義塾 常任理事が決定

2013年5月28日付で、清家篤塾長が就任（2期目）した。それに伴い、9名の常任理事の就任が発表された。その氏名および担当業務について紹介する。病院・信濃町キャンパス担当としては戸山芳昭常任理事が引き続き就任することになったが、新病院棟建設に向けて、さらなる活躍が期待される。（戸山常任理事から寄せられた抱負も掲載）

常任理事と担当業務

塾長　清家　篤（せいけ　あつし）
54年生まれ。78年経済学部卒業。商学部教授（商学博士）

長谷山　彰（はせやま　あきら）
52年生まれ。75年法学部卒業、79年文学部卒業。文学部教授（法学博士）
【担当】教育（主管）、研究（共管）、学生（共管）、一貫教育校（主管）、施設・管理（共管）、三田キャンパス、日吉キャンパス

真壁　利明（まかべ　としあき）
47年生まれ。70年工学部卒業。名誉教授（工学博士）
【担当】研究（主管）、産学連携、IT（主管）、教育（共管）、国際（共管）、矢上キャンパス

清水　雅彦（しみず　まさひこ）
44年生まれ。68年経済学部卒業。名誉教授
【担当】財務・経理、病院経営改革（共管）

渡部　直樹（わたなべ　なおき）
49年生まれ。72年商学部卒業。商学部教授
【担当】施設・管理（主管）、塾員（主管）、体育会、環境、社会・地域連携

戸山　芳昭（とやま　よしあき）
50年生まれ。75年医学部卒業。医学部教授（医学博士）
【担当】病院、病院経営改革（主管）、教育（共管）、研究（共管）、信濃町キャンパス、湘南藤沢キャンパス（共管）

駒村　圭吾（こまむら　けいご）
60年生まれ。84年法学部卒業。法学部教授（法学博士）
【担当】総務・法務、広報、調達、企画、危機管理、教育（共管）、研究（共管）、塾員（共管）　※7月16日就任

國領　二郎（こくりょう　じろう）
59年生まれ。82年東京大学経済学部卒業。総合政策学部教授（経済学博士）
【担当】国際（主管）、IT（共管）、教育（共管）、研究（共管）、一貫教育校（共管）、湘南藤沢キャンパス（主管）　※7月4日就任

増野　匡彦（ましの　ただひこ）
55年生まれ。79年東京大学薬学部卒業。薬学部教授（薬学博士）
【担当】創立150年記念事業、教育（共管）、研究（共管）、点検・評価、病院経営改革（共管）、芝共立キャンパス　※7月1日就任

岩波　敦子（いわなみ　あつこ）
62年生まれ。85年文学部卒業。理工学部教授（哲学博士）
【担当】人事・労務、学生（主管）、個人情報保護、男女共同参画

慶應義塾常任理事に再任されて

戸山　芳昭（整54回）

慶應義塾は今年4月に塾長選挙が行われ、既にご承知の通り清家　篤塾長が再任され、2期目が5月28日よりスタート致しました。清家塾長は慶應義塾の教育・研究・医療、そして人事から経営まで全ての総責任者として、これから4年間の義塾の運営に当たります。

その塾長を支える常任理事は今期から1名増えて9名となり、その一人として私も再任されました。平成21年5月からの前期4年間、理事として精一杯努力してきたつもりですが、先ずはこの4年間を振り返り、総括し、2期目の4年間を私なりに考えてみたいと思います。そして、今期が終了する4年後の2017年は「医学部創立百年」を迎える年に当たります。この様に極めて大事な時期に慶應医学・医療の責任者として信濃町を担当することは、大変名誉なことと同時に、大きな責任を感じております。

さて、前期4年間、解決すべき重要案件を義塾（特に常務会）、信濃町、三四会など、多くの方々からのご支援、ご理解、ご協力を得て以下のように進めて参りました。①月が瀬リハセンター閉院・譲渡、②体育会・日吉地区学生の救急医療体制構築、③チーム医療に向けた医看薬3学部合同教育体制の構築と推進、④チーム医療の実現を目指した医療系三学部生・大学院生対象の奨学基金創設、⑤信濃町キャンパス隣接地の購入（キリスト教団跡地【1000平米】＋建物、パークサイドマンション跡地【2800平米】＋建物）、⑥大学病院総合医療情報システム導入・稼働（電子カルテ等）、⑦3号館北棟竣工、⑧3号館南棟竣工（予防医療センター、腫瘍・免疫統括センター、PETセンター、リハビリセンター、病棟など）、⑨煉瓦館内ストレス研究センター新設、⑩近隣地区での看護師寮（マンション）建設契約締結（賃貸）、⑪新病院棟（1号館）建設事業決定（総額300億円）、建設会社選定・計画推進、⑫新病院棟建設募金（100億円）スタート、⑬病院旧棟耐震化実施・病棟のローリング開始、⑭信濃町キャンパス（特に大学病院）の収支改善、黒字化（平成22年度＝20億円、23年度＝2・5億円、24年度＝5・3億円黒字【帰属収支】）、⑮保健管理センター一部再編・新設、などです。

多くのことを進めて参りましたが、やはり新病院棟建設事業が義塾で承認され、ようやく設計の最終段階にまで辿り着いたことが何よりも嬉しいことであります。塾長の決断と、強力に後押しして頂いた清水財務担当・長谷山施設担当の両理事には感謝の気持ちで一杯です。

また、4年間一緒に行動してきた末松医学部長と武田病院長、そして渡辺新病院棟建設企画担当教授のご尽力に改めて感謝致します。しかし、建設計画が進んでも、それに見合う資金獲得が竣工への条件です。そのための財源には募金による100億円と病院収入による60億円が見込まれています。確かに病院収支も以前の20～30億円赤字の時期から見れば、信濃町教職員の皆様の多大なるご努力により3年連続で黒字となってはおりますが、新病院棟建設には不十分であり、更なる収支改善を図らなければなりません。加えて、三四会の先生方には募金総額100億円の内、30億円程度のご寄付をお願いしなければなりません。どうか、三四会の先生方はもとより、信濃町の教職員の方々、義塾の皆様方にも多方面に亘るご理解とご支援、ご協力を重ねてお願いする次第です。

ところで、今期、私が理事として担当する職務ないし部署は、前期からの継続である信濃町キャンパス（主）・教育（共）・研究（共）・保健管理センター（主）・診療所（主）・スポーツ医学研究センター（主）に加え、湘南藤沢キャンパス（共）・健康マネージメント研究科（主）となりました。関係する皆様方には、どうか宜しくお願い申し上げます。

これからの4年、皆様方のご支援、ご協力を得て、医学部創立百年に当たる2017年度までに新病院棟を建設し、医学部・薬学部・看護医療学部が一体となり、基礎医学と予防医学、臨床医学が融合した「世界に冠たる大学病院―信濃町キャンパス」の実現に向け努力する所存です。

最後に、三四会の比企会長が慶應連合三田会の会長に就任致しました。9000人の組織である三四会から、何と国内外に868団体、34万人の巨大組織である連合三田会のトップに就いた訳です。清家塾長とともに慶應義塾を牽引して頂く比企会長に、三四会からもエールを送り続けて頂ければ幸いです。

第82回 北里記念式典

北里賞・北島賞に3名の研究者

北里賞　高橋　琢哉（74回）「機能的ニューロンネットワーク形成の分子メカニズムの研究」
北里賞　永尾　圭介（73回）「経皮免疫および皮膚免疫システム構築機序の解明」
北島賞　陣崎　雅弘（66回）「泌尿器画像診断アルゴリズムの構築」

比企会長と高橋先生

第82回北里記念式典が、6月12日午後1時より北里講堂で行われた。この式は優れた研究実績を称えて北里賞、北島賞を贈るものであり、日にちは慶應義塾の初代医学部長である北里柴三郎先生の御命日が6月13日であることに由来している。

最初に一同による北里柴三郎先生への黙祷があった後、清家篤塾長、末松誠医学部長、比企能樹三四会長、そして北里柴三郎先生のご令孫であり Meiji Seika ファルマ株式会社最高顧問の北里一郎様からご挨拶があった。

今年度受賞者との集合写真（上段左から武田純三病院長、戸山芳昭常任理事、清家篤塾長、末松誠医学部長、比企能樹三四会長、下段左から永尾圭介氏、高橋琢哉氏、陣崎雅弘氏）

春の叙勲

慶應義塾の歴史や福澤諭吉先生と北里柴三郎先生の関係、今後の医学への貢献やその教育の充実などについてお話があった。その他にも戸山芳昭常任理事、武田純三病院長、石館武夫常任理事、土本寛二理事（北里研究所病院長）、伊藤伸彦理事（北里大学副学長）、梶英輔副学長（北里研究所病院長）が御来賓され受賞者を称えた。

今回の受賞者は北里賞が2名、北島賞が1名で1人ずつ壇上に上がり比企能樹三四会長より賞と副賞を授かったが、高橋先生の御登壇の際には比企会長が「医学部4年生の頃から生理学教室の岡野先生に師事し研究に熱意を見せていた」というエピソードを述べるとともに激励の言葉をかけられ、場が盛り上がった。

授賞式の後は御来賓の方々と受賞者で記念撮影が行われ、その後3人の先生による15分程の講演会、質疑応答があった後無事に閉式となった。

（4年　馬場徹人）

旭日小綬章【保健衛生功労】
近藤　脩（内45回）
元㈳日本医療法人協会副会長、仁厚会病院院長、厚木三田会会長

旭日双光章【保健衛生功労】
森田　孝文（整43回）
元㈳小松市医師会会長、現森田病院院長

瑞宝中綬章【保健衛生功労】
石名田　洋一（整40回）
現国立埼玉病院名誉院長

瑞宝中綬章【保健衛生功労】
佐久間　正祥（外47回）
現水戸赤十字病院名誉院長

三四会奨励賞の推薦について

目的　若手の三四会会員の研究を奨励し、実学としての慶應医学の発展を図ります。

◎対　象
1．次の各分野ですぐれた業績をあげた三四会正会員　（本塾関連病院のみではなく、研究施設他大学、地域等で業績を上げている三四会員も含む）
2．対象となる分野
　イ、臨床医学
　ロ、基礎医学
3．満40歳以下

◎推薦方法
1．推薦者は、三四会役員、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授、他大学教授および慶應義塾大学関連病院会会員とします。
2．推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会奨励賞推薦状）により候補者を推薦して下さい。
3．推薦締切りは平成25年8月27日（火）必着、三四会事務局宛とします。
4．提出部数は、推薦状、略歴、論文別刷（学術集会発表の場合はそれを証明するコピーと800字程度の抄録）オリジナル1部とコピー10部が必要です。
　※推薦状、略歴、論文を順に組んで1部とし、コピーも同じ体裁に整えてください。
　※推薦状のダウンロード、必要書類等は下記ＵＲＬをご覧ください。
　ＵＲＬ：http://www.sanshikai.jp/award/shourei/index.html
5．対象となる研究が共著論文の場合は共著者の承諾書（オリジナル1部とコピー10部）が必要となります。

◎選考ならびに受賞
三四会奨励賞選考委員会による厳正な選考の結果、約8名程度の受賞者を決定します。受賞者は平成25年11月1日に予定されている慶應医学会総会で表彰され、賞状および副賞が授与されます。
※今年度より、「三四会社会功労賞」新設のため、従来よりの「ハ、地域医療、社会貢献または三四会活動等」の分野の公募は中止しました。よって、三四会奨励賞の受賞者は、「約10名程度」から「約8名程度」に変更になりました。
※慶應医学会との関係にて、次回（平成26年度）より三四会奨励賞の表彰は北里記念式典（毎年6月12日）にて行うことになりましたので、次回の公募開始は、平成26年2月頃を予定しております。ご注意ください。

慶應義塾大学病院　各種お問い合わせ先

・初診予約（午前9時～午後7時、第2・4・5土曜日は午後5時まで）

三四会ホットライン
TEL 03-3353-3034（ミオサンシ）

医療機関用
TEL 03-3353-1257　　FAX 03-5843-6167
WEB「病院ホームページ」→「予約問合せ一覧」→『「医療機関からの初診予約」―「Webによる予約」―【医療機関からの予約専用フォーム】』へ
・検査予約（午前8時30分～午後5時）
PET/CT…TEL 03-5843-6165
SPECT …TEL 03-5843-7071
・予防医療センター：人間ドック（午前8時30分～午後5時）
TEL 03-6910-3533

時間外選定療養費の徴収について

7月1日から、休日・時間外の救急外来を受診される患者さんのうち、入院を必要としない緊急性の低い患者さんについては、時間外選定療養費8,400円を徴収致します。ただし、救急車で来院された患者さん、救急外来受診後入院された患者さん等については、徴収対象外とします。

患者の皆様に安全で質の高い医療を提供するための、時間外選定療養費の徴収について、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

鑑賞知来

米国の外科医は高収入というイメージを抱く人が多いのではないだろうか。従来、米国の外科医は出来高払いで手術と検査の件数に比例して収入を得てきた。米国で開業する外科医は病院とは別にオフィスを持ち、複数の病院と個別に契約をし、執刀した手術に準じて収入を得る。よって「如何にして多くの手術をこなすか」が外科医の大きな働くモチベーションになっている。また、限られた時間でより多くの手術を行えることで、外科医だけでなく病院側の収入も増加するため、病院側は率先して「手術の早い外科医」を雇う。これらの背景に基づき米国では「手術の早い外科医＝名外科医」という意見が多い。

ところが近年この傾向に変化が見られている。クリーブランドクリニックでは日本の勤務医に似た年俸制が導入されている。年俸はそれぞれの科により異なるが、手術数、検査数に関わらず年収は一定である。オバマケアの導入の一方で、患者のアウトカムに関係のない不必要な手術や検査への批判、病院外にオフィスを持つ各科の連携不足、さらに処遇の悪いプライマリーケア医の減少等の問題が指摘され、これらの課題が年俸制を後押ししている。米国の専門家の間では年俸制が正しいとの意見が広まっており、つい最近では、5年後までに出来高制を廃止する学会案も提出された。

一方で、年俸制の導入により、外科医のモチベーションの低下や、一人当たりの手術数の減少による病院側の収入減などの懸念もある。現時点では、年俸制と出来高制を併用する雇用形態もあるが、今後は年俸制にシフトしていく病院が増加するとの見解が有力である。

年俸制が主流になる事により、将来的には米国でも「早さ」ではなく「完成度」が外科医の評価の基準になるのではないだろうか。日本の医療崩壊が叫ばれて久しいが、米国が日本のモデルに近づいている事実は大変興味深い。

（ブリガムウィメンズ病院心臓外科　金子剛士　81回）